

健康メモ

ピロリ菌とは？

広島市西区医師会理事
平林内科医院院長 平林 一郎

ピロリ菌は胃に感染する五皿ほどの細菌です。世界の全体の約五〇%が感染し、日本にお



ける感染者は約六〇〇万人いると考えられています。正確な感染経路は特定できていませんが、便から口への感染の可能性が高いとされています。つまり地域の環境衛生状態が感染に重要な役割を果たしていることになり、日本においても衛生状態がまだ十分に整備されていなかったところに生活していた中高年に感染率が高くなっています。ピロリ菌は慢性

胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、マルトリンパ腫（悪性リンパ腫の一種）や胃癌の原因として注目されているだけではなく、ピロリ菌感染との関連性が指摘されている疾患として虚血性心疾患、脳血管疾患、片頭痛、慢性蕁麻疹、特発性血小板減少性紫斑病などの多くの疾患があります。ピロリ菌感染に高食塩摂取や高血糖が加わることにより胃癌発症のリスクが増加することも明らかにされています。

次にピロリ菌に感染した場合の診断は、内視鏡を用いる検査と内視鏡を用いない検査とに分けられます。前者には迅速ウレアーゼ試験、病理組織検査、培養法があります。後者には血清・尿抗体法、尿素呼気試験、便中抗原法があります。感染診断には、どの方法を使用しても九〇%以上の感度特異度があり、有意差を認めません。一般的には除菌療法後は尿素呼気試験と便中抗原法を用いて治療の成否を判定しています。日本では2000年にピロリ菌の除菌治療が保険適応にな

りました。現在、保険適応となっている一次除菌法は、プロトンポンプインヒビター（PPI）、クラリスロマイシン（CAM）、アモキシシリン（AMPC）の三剤併用療法が認められています。当然のことながら三種類の薬剤にアレルギーのある方は投与できませんが、三剤併用療法の副作用として下痢がある以外には重篤な副作用は少ないのが現状です。比較的安心して薬を飲むことができます。除菌成功率は約八〇%前後ですが、失敗した時の二次除菌法も昨年許可になっています。ピロリ菌の除菌に成功すれば、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃癌だけではなく多くの関連疾患から開放される可能性があります。胃の悩みのある方は、一度かかりつけの先生に相談されてはいかがでしょうか。相談する価値はありますよ。